
少年少女爆弾 アナザー

白金千乃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

少年少女爆弾 アナザー

【Nコード】

N2699Y

【作者名】

白金千乃

【あらすじ】

ロマンチックにバイオレンスな青春のページ目、アナザー。

少女漫画の様な出来事は、憧れていたけど、おとぎ話だと思
っていた。

そのときまで。

その日は、多分熱でもあったのだろう。
ほやほやとする頭で、階段を踏み外した。

「あ
」

私が言ったのか、見ていた誰かが言ったのか。
小さな声が、聞こえた。

思ったより痛くないな、階段はこんなものか。
そう思って目を開いた。

目が、合った。

やけにやわらかい床はその人の腕。
痛くなかったのは、落ちきっていなかったから。

それはまるで、どこかで呼んだありきたりな少女漫画の始まり方に似ていて。

私は。

何時もよりもキレのある技を彼にお見舞いした。

* * * * *

「……………ってことがあった」
「……………」

学生たちが羽を思う存分に伸ばす昼休み。

「少女漫画みたいだね」

無言のまま、友人は私を見つめた。
気にせずお弁当の残りに箸を伸ばす。

今日はなんだかお弁当がおいしく感じる。

というか、何となく気分がいい。
さっきまでは具合が悪かったというのに。

「えっと、どうして技をおかけになったのですか？」

「なんとなく」

「嫌だったの？」

「？嬉しかったけど……」

本当に何となくかけてしまったのだ。

本当は、別に言うべきことがあったのに。

「相手の方はどんな方でした？」

技を外した直後、彼は凄い勢いで謝ってきた。

そういえば、土下座しそうな勢いだったな、と思い出しなが
ら。

……謝らなくても良かったのに。

大柄なのに、威圧感と言うものを全く感じない姿だった。
困ったような顔は、たぶん、優しい顔。

「……ふわふわしてた」

そう、例えるなら、ふわふわ。

口にしたら、心までふわふわとしてきた。

「……次にあったら、ちゃんとお礼を言いましょうね」

「……………（こくり）」

口に含んだまま、何も言わずに頷いた。

* * * * *

「今日は何にしましょう?」
「モンブラン」

その日の放課後。

何時もの様に喫茶店によって帰ろうとしていた。

「今の季節にぴったりですね……あら?」

何かに気づいたのか振り返る友人に釣られて後ろを見た。

目が、合った。

どきん、と心臓が跳ねる。

私は、言わなくてはいけない。

そう思って、数メートルの距離を駆け。

「ぐえふっ!!」

彼の鳩尾に思い切り飛び込んだ。

彼の友人だろうか、叫び声が聞こえる。
気にせずに私は友人の元へ駆けた。

「……………」

「……………」

「…………… やっちゃった」

「次は、頑張りましょうね」

「…………… (こくん)」

彼女の言葉に、無言で頷く。

言わなくてはならなかった、あの時のことを。

またついぶつとばしてしまっただけねど、次こそは頑張りよう。

次の日、登校時に見かけた彼へとりあえずローリングソバットをかました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2699y/>

少年少女爆弾 アナザー

2011年11月6日04時15分発行